

日本における「雨」イメージの検討

—雨中人物画の解釈にむけた地域差・性差・精神的健康による比較—

廣田 愛海 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
平野 真理 お茶の水女子大学 生活科学部

要約

雨中人物画は、個人のストレス状況下における防衛能力や自己イメージを測定する投影描画テストである (Hammer, 1958)。雨中人物画においてストレスの象徴とされる「雨」は、地域によってイメージが異なることが考えられ、雨を単純にストレスと解釈することには慎重である必要がある。本稿では、日本における雨中人物画の「雨」描画の理解を目指し、日本の11地域、性別、精神的健康度において「雨」をどのように捉えているのかを調査した。その結果、雨のイメージは [ネガティブイメージ] [ポジティブイメージ] [ニュートラルイメージ] [両価的イメージ] [環境イメージ] に分けられ、地域・性別・精神的健康において、ほとんどが雨に対してネガティブなイメージを抱いていることが示された。そのため、日本における雨中人物画の施行では、雨は概ねネガティブなもの (ストレス) として捉えることができると考えられた。ただし、一定数、雨に対してポジティブなイメージや親和性を感じる者もいることから、実際に雨中人物画を施行した後には、描画について丁寧なヒアリングを行うことが重要であると考えられる。

キー・ワード：雨，雨中人物画，テキスト分析

I 問題と目的

1. 「雨」を主題とした描画テスト

個人の心理状態をアセスメントする描画テストには、木を描くように教示をするバウムテストや、家・木・人を描くように教示をする HTP テストなどがあるが、「雨」を主題にした描画テストに雨中人物画 (Draw-a-Person-in-the-Rain Test; Hammer, 1958; 図 1) がある。

雨中人物画は「雨の中の私 (澤柳・石川・川口・大原, 1989)」を描くように教示をし、描画から描き手のストレス下における自己イメージや、ストレス対処能力などを測定する投影描画テストである。雨中人物画は一般的に、雨がストレス、傘 (雨避け) がストレス対処、人物は自己を表している

と解釈される。病院臨床場面や教育現場、司法領域など様々な臨床領域において活用されているが、他の描画テストのように大規模調査を通じた標準化はされておらず、雨＝ストレスという仮説も客観的な指標としては明らかになっていない。



図 1 雨中人物画の例

2. 「雨＝ストレス」仮説の検討

これまでの雨中人物画を用いた先行研究において、雨の意味するものを検討した研究をいくつか挙げる。

雨中人物画の紹介者である Hammer (1958) は、人物画 (Draw-a-Person; Machover, 1949/1974) と雨中人物画を比較したところ、雨中人物画では個人の心理的問題が表現されやすく、描画者の病理はストレス状況下 (雨の中) で明らかになることを強調した。以降、雨中人物画において「雨＝ストレス」仮説が普及していったと考えられる。Carney (1992) は「雨＝ストレス」という解釈仮説の妥当性を検討し、雨量や雨からの防御が抑うつの指標として有効であったと報告している。一方で日本においては、雨描画と P-F スタディの関連から、雨は描画者の自己主張性を表すとしており、雨がストレスであるという解釈仮説とは別の解釈の可能性があることが示された (丹治・松本・今泉, 1993)。少年鑑別所における研究では、雨描画は神経症傾向 (久保・雨宮, 2001)、気分の不安定さ (黒川・宇田, 2003) といった非行に関連が深い特性との関連を示したことを報告している。このように、雨描画と個人の心理的特性の関連は多く研究されているが、研究対象者の属性や調査の文化圏が異なっていることから、共通した解釈指標は得られていない。さらに、森川・平井 (2010) も、雨中人物画を描いた者の中には、雨に肯定的なイメージを持つ者が一定数存在している可能性を示唆している。

雨をどのように捉えるのかは、文化圏によっても違いがあることが想定される。例えばアラビア半島や北アフリカでは雨が降ることは稀であり、雨は祝福される出来事で、富の源であると考えられていることから、描画者の住む地域において雨がどのような意味合いを持っているのかを考慮する必要があると指摘されている (Chebaro, 1998)。日本においても、単純に雨がストレス状況を表すとは限らず、地域によって独自の意味づけがされてい

る可能性を検討する必要があるといえる。

3. 日本における「雨」とは

日本はモンスーンアジアの東端に位置しており、世界と比べても降水量が多い地域である。2021年の降水量は、基準値 (1991～2022年の30年平均) と比べて偏差が+213.4mmであり、統計開始以降10番目に多い降水量であった。最近では、2020年7月3日から7月31日の熊本県を中心に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」以降、集中豪雨による河川の氾濫や家屋の浸水などが相次いでいることから、メディア等においてはネガティブなイメージを持って語られることが多いと言えるだろう。

しかし日本では雨が降る気候を利用して、古くから水田稲作や生活における雨水の利用、水力発電など、雨によって生産や生活が支えられており、時には信仰の対象として人々の心と密接に関係してきた。日本における雨にまつわる言葉は「豪雨」「霧雨」など気象用語から、「雨降って地固まる」といったことわざ、「慈雨」「風花」というような季語など、実に多様であり、肯定的な意味合いを含んだ表現も多く存在している (倉嶋・原田, 2014)。以上のことから、「雨」は日本に住む人々にとって非常に馴染み深く、雨のイメージや印象的な記憶など、ポジティブなものもネガティブなものも含めて個別性が高いことが考えられる。

そこで本研究では、雨中人物画に描かれる雨描画の適切な解釈に向けての知見を得るために、日本の各地域に住む成人を対象にした調査を通して、日本人の持つ雨についてのイメージを探索的に検討することを目的とした。また、雨に対するイメージはその時の心理状態によっても影響を受ける可能性があるため、精神的健康との関連についても併せて検討することを目的とした。

II 方法

1. 調査対象者

インターネット調査会社の保有するモニターから 20~39 歳の男女を対象者とした。気象庁における季節予報区分の 11 区分（北海道・東北・関東甲信・東海・北陸・近畿・中国・四国・九州北部・九州南部・沖縄）ごとに 120 名ずつ募集し、計 1,320 名に対し質問紙調査を実施した。無効回答となった 78 名を除外した結果、男性 605 名（平均年齢 30.07 歳, $SD=5.68$ ）、女性 637 名（平均年齢 29.79 歳, $SD=5.74$ ）の計 1,242 名を調査対象とした。

2. 調査内容

1) 基本属性

回答者の年齢、性別、居住都道府県についての情報を得た。

2) 雨に関するイメージ

雨に関するイメージについて、「雨にはどのようなイメージを持っていますか」という教示に対して、自由に記述してもらうことを求めた。

また、多田 (2007) の水イメージ SD 法尺度 (30 項目) を参考に、雨中人物画テストを現場で実施している臨床心理士 3 名で「雨」に当てはめてイメージすることができる形容詞対 18 項目を抜粋して、雨のイメージに関する SD 法尺度として採用した (表 1)。ここでは、7 段階で回答を求めた。

3) 精神的健康に関する尺度

精神的健康を測定する尺度として、K6 (Kessler et al., 2002) の日本語版 (古川・大野・宇田・中根, 2003) を用いた。K6 は気分障害や不安障害などのスクリーニングを目的として開発された尺度である。ここでは、「全くない (0 点)」から「いつも (4 点)」の 6 項目 5 件法で尋ねた。得点が高いほど、精神的健康度が悪いことを示す。5 点以下を無症状もしくは軽度、5 点以上 13 点以下であれば中程度、13 点以上は重度とカットオフ値が定められており (Furukawa et al., 2008)、本調査でも

採用した。

表1 多田 (2007) より抜粋した18項目

	1	2	3	4	5	6	7	
	非常に	とても	やや	どちらでもない	やや	とても	非常に	
形容詞								形容詞
緊張した								くつろいだ
開放的な								閉鎖的な
不調和な								調和した
暗い								明るい
弱い								強い
安定した								不安定な
貧弱な								豊かな
動的な								静的な
喜びのある								悲しみのある
優しい								きつい
重たい								軽い
澄んだ								濁った
冷ややかな								暖かな
母性的な								父性的な
生命的な								無生命な
綺麗な								汚い
聖的な								俗的な
危険な								安全な

3. 倫理的配慮

研究協力者は、インターネット調査会社における研究倫理的配慮・個人情報に関する説明を十分に受け、研究調査への協力に同意したうえでモニター登録を行っている。本研究の調査に回答する前に、研究の概要についての説明を表示した。さらに次のページには、回答は強制ではないこと、回答中でも止めることができること、回収したデータは研究者以外がアクセスできないよう厳重に管理されること、回答することによって個人が特定されることはないこと、調査で得られた結果を学会や論文などで発表・公表することがあること、についても記載した。これらの内容を理解したうえで、調査の協力に同意した場合にのみ、「上記内容に同意する」にチェックを入れ、さらに「(アンケートにご協力いただけますか) はい」をクリックして同意の意思を確認した。

本研究は、調査時に第二著者が所属していた東京家政大学研究倫理委員会の承認を得て実施した

(番号 2022-03)。

4. 分析方法

1) テキスト分析

雨のイメージについて記述された 1,242 の自由記述から、雨のイメージに関連する語や、語の出現頻度を明らかにするため、テキストデータを統計的に分析するためのフリーソフトウェアである KH Coder (樋口, 2012) を用いて分析をおこなった。KH Coder における形態素解析に先立って、①テキストデータを確認し明らかな誤字を修正、②同じ内容の語の表記を統一 (例; じめじめ→ジメジメ, くらい→暗い)、③雨のイメージについて「雨にはどのようなイメージを持っていますか」と教示したため、「雨は…」 「…というイメージ」という形式での回答が多くなる可能性が予測されたため「雨」「イメージ」の 2 語を分析対象から除外、という手順で前処理を行ったうえで分析を行った。

また、雨のイメージについての自由記述から、記述内容を [ポジティブ] [ニュートラル] [ネガティブ] [両価的評価] [環境] [その他] の 6 つにコーディングした。これらのコーディングは主に第一著者によって行われた。

2) 統計的分析

自由記述から得られた雨のイメージによる地域差、性差、精神的健康との関連について検討するため、統計分析ソフト HAD (清水, 2016) を用い

て χ^2 検定を行った。また形容詞対による雨イメージの地域差、性差、精神的健康との関連について検討するため、分散分析を行った。

III 結果と考察

1. 雨イメージに関連する語

雨のイメージについての自由記述の形態素解析の結果、12,964 語が抽出された。どのような語が用いられているのかを明らかにするため、助詞や助動詞を除いた 6,480 語より、頻出回数が多かった順に 20 語をリスト化した。その後、抽出された 20 語について、年齢、性別、居住の 11 区分、K6 のカットオフ値 (0~4 点が低群、5~12 点が中群、13 点以上が高群) ごとの出現回数を表 2 にまとめた。

抽出語リストより、年齢における最頻出語は、20 代で「暗い」、次いで「ジメジメ」であり、30 代での最頻出語は「ジメジメ」、次いで「暗い」、頻出語 3 位は 20 代・30 代ともに「濡れる」であった。性別における最頻出語は男女ともに「ジメジメ」、次いで「暗い」「濡れる」であった。11 区分における最頻出語は、東海・中国・四国・九州北部・九州南部・沖縄で「ジメジメ」、北海道・東北・近畿で「暗い」、関東甲信・北陸で「濡れる」であった。K6 得点別において、低群の最頻出語は「暗い」、次いで「ジメジメ」「濡れる」であり、中群・高群では「ジメジメ」「暗い」「濡れる」の順で頻度が多かった。

表2 年齢・性別・地域別における語の出現回数

抽出語	年齢		性別		地域											精神的健康			出現回数
	20代 (n=619)	30代 (n=623)	男性 (n=605)	女性 (n=637)	北海道 (n=115)	東北 (n=109)	関東甲信 (n=111)	東海 (n=113)	北陸 (n=115)	近畿 (n=108)	中国 (n=118)	四国 (n=114)	九州北部 (n=114)	九州南部 (n=116)	沖縄 (n=109)	K6低 (n=443)	K6中 (n=542)	K6高 (n=257)	
1 ジメジメ	106	101	77	130	19	17	8	20	14	20	27	22	21	20	19	75	93	39	207
2 暗い	107	87	76	118	29	28	15	8	16	21	14	13	19	18	13	82	76	36	194
3 濡れる	78	70	64	84	6	19	16	15	18	9	11	14	14	9	16	68	53	19	148
4 気分	56	45	39	62	13	5	4	13	12	5	5	13	13	9	9	52	30	19	101
5 降る	43	40	35	48	8	8	2	6	8	6	12	10	5	8	10	39	33	11	83
6 嫌	42	34	35	41	9	13	7	5	8	1	9	4	4	9	7	34	32	10	76
7 外	39	33	30	42	8	7	4	5	9	2	5	8	6	11	7	29	29	14	72
8 湿気	41	30	25	46	6	5	4	6	6	6	6	7	8	8	9	27	30	14	71
9 傘	35	31	27	39	2	5	11	5	14	8	2	6	7	3	3	26	29	11	66
10 気持ち	33	25	26	32	8	3	5	5	5	3	7	3	7	2	10	20	30	8	58
11 洗濯	21	34	17	38	3	5	3	3	2	3	7	7	5	8	9	26	22	7	55
12 音	24	30	23	31	10	6	2	6	4	1	5	5	4	4	7	22	21	11	54
13 憂鬱(名)	23	29	18	34	4	2	7	7	5	4	6	3	3	6	5	15	26	11	52
14 憂鬱(形動)	25	26	16	35	2	5	3	4	7	5	4	6	4	6	5	22	17	12	51
15 下がる	33	15	20	28	4	3	3	4	12	2	1	5	7	1	6	25	15	8	48
16 好き	20	26	24	22	6	8	3	6	3	1	3	5	3	5	3	23	17	6	46
17 寒い	20	20	18	22	7	6	1	3	7	3	5	3	3	1	1	14	18	8	40
18 湿度	13	27	13	27	4	8	3	4	4	2	2	4	3	5	1	19	17	4	40
19 落ち着く	20	20	24	16	5	1	3	4	4	2	5	7	2	3	4	13	19	8	40
20 出る	22	17	13	24	6	3	2	5	3	2	2	2	2	7	5	10	23	6	39

年齢・性別・地域・精神的健康度における、雨に関するイメージを表す語から、日本において雨は多くの人が「ジメジメ」した「暗い」イメージがあり、「濡れる」という物理的な不便さを感じていることが推察された。

2. 雨のイメージの分類

雨のイメージについての自由記述 1,242 件について、[ネガティブイメージ] [ポジティブイメージ] [ニュートラルイメージ] [両価的イメージ] [環境イメージ] [その他] に分類をおこなった (表 3)。

分類された 6 つのイメージが、性別・居住地域 11 区分・K6 得点ごとに差があるかを検討するため χ^2 検定を行った。居住地域 11 区分において、6 つの雨イメージの出現率に有意なばらつきが認められ ($\chi^2(50)=68.25, p<.05, V=.11$)、残差分析より、東海地方では [ネガティブイメージ] の記述が少なく、北陸地方では [ネガティブイメー

ジ] の記述が多いことが示された (表 4; 図 2)。東海地方・北陸地方で最も回答率の高かった愛知県と新潟県の年平均降水量を比べたところ、愛知県名古屋市で 1578.9mm、新潟県新潟市で 1845.9mm と、新潟県の方が年平均降水量が多かった (気象庁, 2020a, 2020b)。雨イメージの抽出語リストにおいて、東海地方ではポジティブな感情・感覚を表す語である「好き」が頻度 6 位であるのに対し、北陸地方で「好き」は 34 位であり、「落ち着く」というようなポジティブなニュアンス・文脈で用いられている語は 27 位に初めて出現していた。雨イメージの内容からは、北陸地方では「傘をさすのが面倒」「荷物が多くなるので憂鬱」と物理的な不便さに関する記述が多く見られていた。日照時間が短い地域ほどネガティブな気分になりやすいが (Okawa et al., 1996)、北陸地方は春から初夏以外の季節では雨や雪の影響で、日照時間が短くなり、北陸地方の抽出語リストにも「暗い」という語は頻度 2 位であった。これらのこと

表3 雨のイメージに関する分類 (N=1,242)

分類	度数	記述例
ネガティブイメージ	790	ジメジメして過ごしにくい／雨具が必要で面倒／行動が制限される気がして嫌
ポジティブイメージ	119	落ち着くイメージ／いい音がする／嫌なことを洗い流してくれそう／天の恵み
ニュートラルイメージ	33	良くも悪くもない／人出が少なくなる／傘が必要／水が降ってくる
両価的イメージ	68	マイナス面が多いかなと思うけど、悪いことばかりでもない／時には嬉しく時には憂鬱になる
環境イメージ	135	寒い／湿度が高くなる／太陽が隠れる／蒸し暑い
その他	97	なし／分かりません／意識したことがない／FF8主人公の名前

表4 地域における各イメージのクロス表

	ネガティブ イメージ	ポジティブ イメージ	ニュートラル イメージ	両価的 イメージ	環境 イメージ	その他	合計
北海道	67 (58.26)	14 (12.17)	3 (2.61)	9 (7.83)	8 (6.96)	14 (12.17)	115 (100)
東北	73 (66.97)	8 (7.34)	4 (3.67)	8 (7.34)	10 (9.17)	6 (5.50)	109 (100)
関東甲信	67 (60.36)	7 (6.31)	5 (4.50)	2 (1.80)	10 (9.01)	20 (18.02)	111 (100)
東海	▼62 (54.87)	15 (13.27)	2 (1.77)	9 (7.96)	14 (12.39)	11 (9.73)	113 (100)
北陸	△83 (72.17)	7 (6.09)	5 (4.35)	6 (5.22)	9 (7.83)	5 (4.35)	115 (100)
近畿	68 (62.96)	10 (9.26)	2 (1.85)	3 (2.78)	17 (15.74)	8 (7.41)	108 (100)
中国	74 (62.71)	10 (8.47)	5 (4.24)	6 (5.08)	15 (12.71)	8 (6.78)	118 (100)
四国	69 (60.53)	14 (12.28)	3 (2.63)	9 (7.89)	13 (11.40)	6 (5.26)	114 (100)
九州北部	77 (67.54)	6 (5.26)	0 (0.00)	5 (4.39)	18 (15.79)	8 (7.02)	114 (100)
九州南部	76 (65.52)	13 (11.21)	3 (2.59)	5 (4.31)	13 (11.21)	6 (5.17)	116 (100)
沖縄	74 (67.89)	15 (13.76)	1 (0.92)	6 (5.50)	8 (7.34)	5 (4.59)	109 (100)

注) () 内は%, △は有意に多い, ▼は有意に少ない

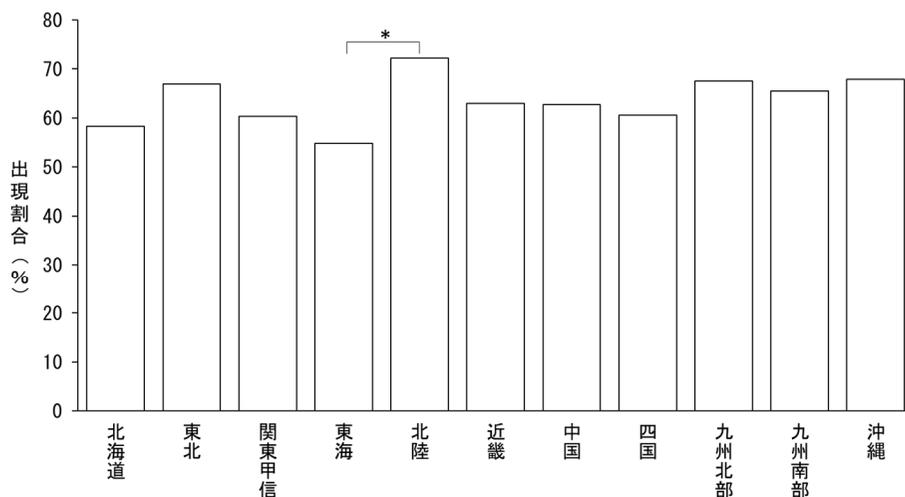


図2. 地域区分ごとのネガティブイメージの出現割合

* $p < .05$

から、北陸地方では、日常生活で不便さを感じる場面に遭遇することが多く、「暗い」イメージを持っていることが推察され、他の地方に比べて特にネガティブなイメージを持つ割合が多くなったと考えられた。地域区分において東海地方は最も「ネガティブイメージ」の出現が少なかった。東海地方で最も回答率の高かった県である愛知県では、昭和30年代から地下街の開発が進められ、現在では名古屋駅地区・栄地区・その他の地区を合わせて延べ面積は170,203㎡になる(名古屋市, 2022)。地下街には飲食店や商業施設が併設されていたり、災害時には避難場所として利用できたりと、雨の影響を受けにくいことが考えられる。また、東海地方(太平洋側)の気候特徴として、一年を通して夏に降水量が多く、その他の季節で降水量が少ないこともあるため、雨に対するネガティブな経験をすることが北陸地方に比べて少ないことが推察される。これらのことから、東海地方においては雨に対する「ネガティブイメージ」の出現が少なくなったのかもしれない。

また性別においても6つのイメージの出現には有意なばらつきが認められた($\chi^2(5)=14.44, p < .05, V=.11$)。残差分析より、女性の方が男性よりも「ネガティブイメージ」を多く記述しており、「ポジティブイメージ」や「(イメージが)ない」といった

「その他」の回答は少ないことが示された(表5; 図3)。女性の「ネガティブイメージ」の内容には、「湿気で髪がセットしてもとれる」「服が濡れてしまう」「メイクが崩れる」といった記述が見られていた。KH Coderによる頻出語リストで比較すると、女性の場合は18位に「髪」、31位に「髪の毛」、43位に「服」とあることに対して、男性では「髪」の出現回数は1回、「服」の出現回数は7回と、男性の記述では外見に関連した語は見られにくかったこと。また、男性は女性に比べて「ポジティブイメージ」の記述が多くみられたが、男性の「ポジティブイメージ」の記述内容には、「農作物の恵み」「自然には必要なこと」といった記述が見られていた。KH Coderの頻出語リストでも、11位に「好き」、12位に「落ち着く」、30位に「必要」とあり、女性よりもポジティブな語が上位であった。以上のことから、男女ともに雨に対してはネガティブなイメージを抱きやすいが、男性の方が比較的ポジティブなイメージも抱きやすいことが推察された。K6の得点別において、6つのイメージの出現率に有意なばらつきが認められた($\chi^2(10)=30.44, p < .01, V=.11$)。残差分析より、K6得点高群(精神的健康度が低い群)よりもK6得点低群(精神的健康度が保たれている群)の方が「ネガティブイメージ」を多く記述しており、[そ

表5 性別における各イメージのクロス表

	ネガティブ イメージ	ポジティブ イメージ	ニュートラル イメージ	両価的 イメージ	環境イメージ	その他	合計
女性	△425 (66.72)	▼50 (7.85)	16 (2.51)	40 (6.28)	40 (10.83)	▼37 (5.81)	637 (100)
男性	▼365 (60.33)	△69 (11.40)	17 (2.81)	28 (4.63)	28 (10.91)	△60 (9.92)	605 (100)

注) () 内は%, △は有意に多い, ▼は有意に少ない

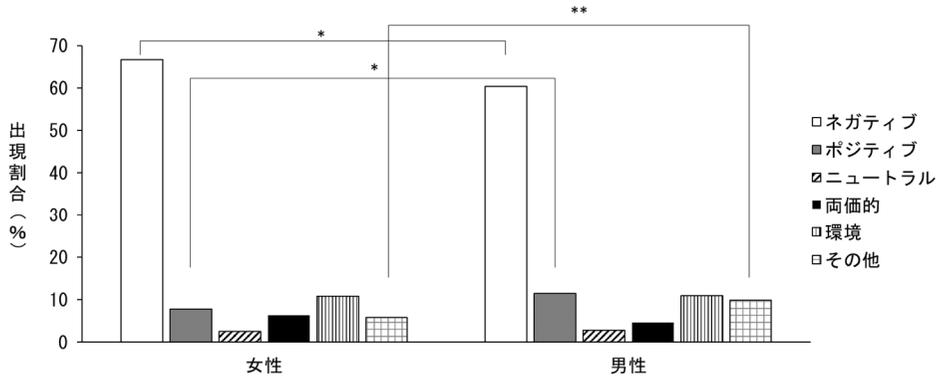


図 3. 性別ごとの雨イメージの出現割合 * $p<.05$, ** $p<.01$

表6 K6得点における各イメージのクロス表

	ネガティブ イメージ	ポジティブ イメージ	ニュートラル イメージ	両価的 イメージ	環境イメージ	その他	合計
低群	△49 (68.17)	9 (11.06)	27 (2.03)	9 (6.09)	▼32 (7.22)	▼24 (5.42)	443 (100)
中群	50 (62.55)	14 (9.23)	24 (2.58)	5 (4.43)	△75 (13.84)	40 (7.38)	542 (100)
高群	▼20 (57.98)	10 (7.78)	17 (3.89)	6 (6.61)	28 (10.89)	△33 (12.84)	257 (100)

注) () 内は%, △は有意に多い, ▼は有意に少ない

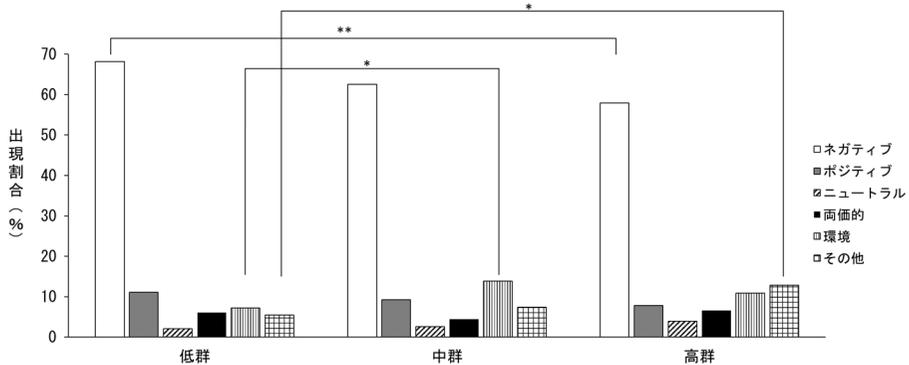


図 4. K6得点ごとの雨イメージの出現割合 * $p<.05$, ** $p<.01$

の他]の記述は少ないことが示された。また、K6得点中群はK6得点低群に比べて[環境イメージ]を多く記述していた(表6; 図4)。精神的健康が低い群の記述では、「音が好き」「外が騒がしくない」「静かで落ち着く」といった記述が多くあり、雨に対してそれほどネガティブなイメージを抱いていないことが示唆された。抑うつ状態にある人は、ロールシャッハ・テストにおいてC'(無彩色反応)が増加したり(片口, 1987), 黒—色彩バウ

ムテスト(Fodor & Kendel, 1966)において色彩バウムに黒色が使用されるといったように(名島, 1998), 「暗い」ものに対して反応しやすいことが示されている。また, 非常に悲しい気分の時に悲しい音楽を聴くと, 悲しみを低下させる効果があることも示されており(松本, 2002), 精神的健康が低い人はその時の感情に類似するものに対して親和性を抱きやすいことが報告されている。そのため, 精神的健康が低い群は, 比較的雨に対して

表7 水に関するSD尺度の地域別比較

形容詞対	北海道 (n=115)		東北 (n=109)		関東甲信 (n=111)		東海 (n=113)		北陸 (n=115)		近畿 (n=108)		中国 (n=118)		四国 (n=114)		九州北部 (n=114)		九州南部 (n=116)		沖縄 (n=109)		F値	多重比較	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD			
緊張した	—	くつろいだ	4.09 (1.29)	3.73 (1.16)	3.79 (1.02)	4.04 (1.19)	3.87 (1.17)	3.77 (1.23)	3.79 (1.18)	3.89 (1.14)	3.96 (0.90)	3.97 (1.10)	4.09 (1.21)	1.43											
開放的な	—	閉鎖的な	4.73 (1.44)	4.87 (1.53)	4.64 (1.37)	4.91 (1.40)	4.90 (1.47)	4.94 (1.26)	5.16 (1.36)	4.82 (1.31)	4.72 (1.34)	4.55 (1.40)	4.46 (1.32)	2.25*	中国>	沖縄									
不調和な	—	調和した	3.66 (1.38)	3.14 (1.32)	3.41 (1.25)	3.44 (1.59)	3.37 (1.25)	3.62 (1.37)	3.36 (1.48)	3.41 (1.37)	3.48 (1.40)	3.42 (1.35)	3.50 (1.24)	1.18											
暗い	—	明るい	2.79 (1.50)	2.47 (1.36)	2.76 (1.39)	2.86 (1.55)	2.60 (1.31)	2.79 (1.54)	2.50 (1.31)	2.75 (1.45)	2.87 (1.45)	2.89 (1.23)	2.89 (1.21)	1.33											
弱い	—	強い	3.92 (1.04)	3.91 (1.14)	3.80 (1.20)	4.04 (1.18)	3.74 (1.20)	3.88 (1.16)	3.86 (1.15)	3.89 (1.17)	4.05 (1.15)	4.00 (1.16)	3.87 (1.05)	.81											
安定した	—	不安定な	4.83 (1.33)	4.94 (1.39)	4.60 (1.40)	5.00 (1.40)	4.89 (1.25)	4.94 (1.19)	4.97 (1.32)	4.80 (1.23)	4.96 (1.20)	4.65 (1.17)	4.80 (1.23)	1.19											
貧弱な	—	豊かな	3.88 (1.24)	3.71 (1.23)	3.65 (1.13)	3.81 (1.33)	3.71 (1.07)	3.82 (1.18)	3.74 (1.17)	3.57 (1.08)	3.62 (1.13)	3.68 (1.12)	3.84 (1.15)	.78											
動的な	—	静的な	4.14 (1.36)	4.23 (1.42)	4.20 (1.29)	4.35 (1.47)	4.41 (1.22)	4.31 (1.42)	4.26 (1.39)	4.46 (1.34)	4.39 (1.31)	4.32 (1.21)	4.30 (1.21)	.58											
喜びのある	—	悲しみのある	4.74 (1.35)	4.75 (1.36)	4.66 (1.42)	4.85 (1.45)	4.95 (1.31)	4.90 (1.20)	4.82 (1.31)	4.94 (1.31)	4.62 (1.35)	4.69 (1.18)	4.47 (1.32)	1.38											
優しい	—	きつい	4.24 (1.21)	4.34 (1.33)	4.25 (1.22)	4.50 (1.38)	4.34 (1.37)	4.36 (1.23)	4.40 (1.31)	4.35 (1.15)	4.39 (1.29)	4.10 (1.08)	4.06 (1.10)	1.21											
重たい	—	軽い	3.38 (1.29)	2.95 (1.16)	3.23 (1.26)	3.13 (1.33)	3.18 (1.26)	3.19 (1.40)	3.14 (1.34)	3.21 (1.31)	3.29 (1.25)	3.40 (1.26)	3.21 (1.11)	1.04											
澄んだ	—	濁った	4.43 (1.31)	4.75 (1.36)	4.50 (1.29)	4.73 (1.38)	4.51 (1.33)	4.71 (1.33)	4.66 (1.43)	4.60 (1.41)	4.49 (1.35)	4.45 (1.27)	4.39 (1.23)	1.06											
冷ややかな	—	暖かな	3.04 (1.23)	2.95 (1.24)	3.04 (1.22)	3.12 (1.42)	2.92 (1.23)	3.11 (1.29)	3.01 (1.14)	2.90 (1.30)	3.33 (1.22)	3.42 (1.12)	3.24 (1.19)	2.13											
母性的な	—	父性的な	4.05 (0.88)	3.94 (0.81)	3.89 (0.67)	3.99 (0.92)	3.89 (0.84)	4.03 (0.95)	3.90 (0.93)	4.08 (0.83)	4.04 (0.83)	3.97 (0.88)	3.94 (0.87)	.71											
生命的な	—	無生命な	3.57 (1.22)	3.49 (1.18)	3.55 (1.13)	3.57 (1.28)	3.55 (1.21)	3.75 (1.35)	3.36 (1.27)	3.45 (1.30)	3.75 (1.23)	3.60 (1.20)	3.59 (1.12)	.98											
綺麗な	—	汚い	4.05 (1.32)	4.17 (1.22)	4.03 (1.04)	4.15 (1.24)	4.14 (1.12)	4.31 (1.26)	4.16 (1.22)	4.12 (1.24)	4.15 (1.10)	3.84 (1.01)	3.94 (1.08)	1.30											
聖的な	—	俗的な	3.69 (1.12)	3.82 (0.89)	3.88 (1.05)	3.88 (1.11)	3.77 (0.91)	4.05 (1.10)	3.90 (1.08)	3.90 (0.94)	3.96 (0.99)	3.82 (0.97)	3.93 (0.97)	1.04											
危険な	—	安全な	3.61 (0.93)	3.33 (1.06)	3.41 (1.09)	3.37 (1.10)	3.49 (0.98)	3.61 (1.09)	3.31 (1.04)	3.55 (1.16)	3.49 (1.09)	3.59 (1.03)	3.57 (1.07)	1.21											

* $p < .05$

ネガティブイメージを抱きにくい可能性が考えられた。また、精神的健康が低い群は[その他]の記述が多かった。[その他]の内容の多くは「特にない」といった回答であったため、雨に対してイメージを働かせるエネルギーが少なく、相対的に[その他]以外の記述が少なくなった可能性も考えられた。

K6 得点中群では[環境イメージ]の記述が多く、「湿度が多くジメジメしている」「湿度が高い」といった雨環境に焦点を当てた内容がみられていた。K6 中群(6~12点)にあたるものは不安・気分障害相当とされており(Furukawa et al., 2008), 思考力や精神活動が低下傾向にあると考えられる。そのため、「雨」に対してイメージを膨らませづらく、湿度のような数値で表される客観的な状況についての評価が多くなったことが推察された。

3. 雨の形容的イメージ

雨についての形容的イメージが、地域によって差があるのかを検討するため、SD 法尺度で得られた結果について分散分析を行った(表7)。その結果、[開放的な-閉鎖的な]において有意差が認められた($F(10, 1231)=2.25, p < .05, \eta^2=.02$)。多重比較より、沖縄地方と比べて中国地方に住んでいる群のほうが、雨に対して[閉鎖的な]に近

いイメージを持っていることが示唆された($d=.49$)。中国地方では抽出語頻度6位に「外出」があり、「(外出)しにくい/が億劫/が面倒くさい」という文脈で使われていた。また、パーソナリティ(Big Five)の地域差を検討した研究において、中国地方では外向性(人との交流が好きで活発である傾向; John & Srivastava, 1999)が低い傾向が示されている(吉野・小塩, 2021)。これらのことから、中国地方では雨が閉鎖的なイメージに繋がったと考えられる。

また、性別によって雨の形容的イメージに差があるかを検討するため、SD 法尺度で得られた結果について t 検定を行った(表8)。その結果、女性の方が[閉鎖的な]($d(1240)=4.94, p < .01, d=.28$), [調和した]($d(1240)=-2.18, p < .05, d=.212$), [不安定な]($d(1240)=3.52, p < .01, d=.20$), [きつい]($d(1240)=2.19, p < .05, d=.12$), [濁った]($d(1240)=3.47, p < .01, d=.20$)に近いイメージを持っており、男性の方が[明るい]($d(1240)=4.54, p < .01, d=.26$), [軽い]($d(1240)=3.36, p < .01, d=.19$), [無生命な]($d(1240)=2.06, p < .05, d=.12$)に近いイメージを持っていることが示された。ただし、効果量の値が $d=.12 \sim .26$ と小さく、実質的な差は小さいことが考えられ、性別によって形容的イメージに差

があると解釈することには注意が必要だろう。 された (表 9)。ただし、効果量の値が $d=.14\sim.28$

表8 水に関するSD尺度の性別比較

形容詞対	女性 (n=637)		男性 (n=605)		t値	d
	M	SD	M	SD		
緊張した — くつろいだ	3.93 (1.11)		3.88 (1.18)		0.81	.05
開放的な — 閉鎖的な	4.98 (1.32)		4.59 (1.44)		4.94**	.14
不調和な — 調和した	3.56 (1.40)		3.52 (1.33)		-2.18*	.12
暗い — 明るい	2.57 (1.37)		2.92 (1.40)		-4.54**	.26
弱い — 強い	3.93 (1.14)		3.88 (1.16)		.69	.04
安定した — 不安定な	4.98 (1.27)		4.72 (1.29)		3.52**	.20
貧弱な — 豊かな	3.71 (1.14)		3.75 (1.19)		-.57	.03
動的な — 静的な	4.36 (1.29)		4.25 (1.38)		1.48	.08
喜びのある — 悲しみのある	4.88 (1.25)		4.65 (1.40)		3.08	.18
優しい — きつい	4.38 (1.24)		4.23 (1.26)		2.19*	.12
重たい — 軽い	3.09 (1.27)		3.34 (1.26)		-3.36**	.19
澄んだ — 濁った	4.69 (1.32)		4.43 (1.34)		3.47**	.20
冷ややかな — 暖かな	2.98 (1.21)		3.23 (1.26)		-3.51	.19
母性的な — 父性的な	4.01 (.78)		3.94 (.93)		1.39	.08
生命的な — 無生命な	3.49 (1.22)		3.64 (1.24)		-2.06*	.12
綺麗な — 汚い	4.14 (1.13)		4.06 (1.22)		1.21	.07
聖的な — 俗的な	3.82 (.98)		3.92 (1.05)		-1.65	.09
危険な — 安全な	3.45 (1.01)		3.52 (1.12)		-1.06	.06

** $p < .01$, * $p < .05$

表9 水に関するSD尺度のK6得点別比較

形容詞対	低群 (n=443)		中群 (n=542)		高群 (n=257)		F値	多重比較
	M	SD	M	SD	M	SD		
緊張した — くつろいだ	3.98 (1.10)		3.85 (1.14)		3.91 (1.24)		1.59	
開放的な — 閉鎖的な	4.85 (1.36)		4.71 (1.38)		4.85 (1.45)		1.49	
不調和な — 調和した	3.42 (1.33)		3.45 (1.33)		3.43 (1.52)		.06	
暗い — 明るい	2.55 (1.22)		2.85 (1.26)		2.84 (1.43)		6.58**	中群 > 低群 ($d=.22$), 高群 > 低群 ($d=.21$)
弱い — 強い	3.92 (1.02)		3.81 (1.13)		4.08 (1.34)		4.83**	高群 > 中群 ($d=.23$)
安定した — 不安定な	4.91 (1.22)		4.73 (1.26)		5.01 (1.43)		5.05*	低群 > 中群 ($d=.14$), 高群 > 中群 ($d=.22$)
貧弱な — 豊かな	3.84 (1.13)		3.64 (1.12)		3.71 (1.31)		3.64*	低群 > 中群 ($d=.17$)
動的な — 静的な	4.22 (1.33)		4.29 (1.31)		4.49 (1.36)		3.34*	中群 > 低群 ($d=.20$)
喜びのある — 悲しみのある	4.75 (1.26)		4.68 (1.33)		4.97 (1.41)		4.19*	高群 > 中群 ($d=.22$)
優しい — きつい	4.24 (1.16)		4.30 (1.22)		4.43 (1.44)		1.99	
重たい — 軽い	3.14 (1.16)		3.22 (1.24)		3.32 (1.50)		1.54	
澄んだ — 濁った	4.57 (1.27)		4.47 (1.31)		4.76 (1.48)		4.02*	高群 > 中群 ($d=.21$)
冷ややかな — 暖かな	2.98 (1.14)		3.17 (1.21)		3.16 (1.45)		3.23	
母性的な — 父性的な	3.95 (.72)		3.95 (.89)		4.06 (1.00)		1.59	
生命的な — 無生命な	3.44 (1.14)		3.56 (1.21)		3.78 (1.38)		6.52**	高群 > 低群 ($d=.28$), 高群 > 中群 ($d=.18$)
綺麗な — 汚い	4.04 (1.09)		4.07 (1.14)		4.26 (1.36)		3.30*	高群 > 低群 ($d=.19$)
聖的な — 俗的な	3.80 (.90)		3.85 (.94)		4.04 (1.31)		4.55**	高群 > 低群 ($d=.23$), 高群 > 中群 ($d=.18$)
危険な — 安全な	3.48 (.97)		3.49 (.99)		3.48 (1.33)		.01	

** $p < .01$, * $p < .05$

そして、K6の得点別においても、SD法尺度で得られた結果について分散分析を行い、多重比較を行った結果、中群・高群は低群よりも[明るい]、低群・高群は中群よりも[強い][不安定]、低群は中群よりも[豊かな]、中群は低群よりも[静的な]、高群は中群よりも[悲しみのある]といった形容詞に近いイメージを抱いていることが示唆された。また、高群は中群よりも[濁った]、高群は低群・中群よりも[無生命な]、高群は中群よりも[汚い]、高群は低群・中群よりも[俗的な]といった形容詞に近いイメージを抱いていることが示

と小さいため、実質的な差は小さいことが考えられ、精神的健康の程度において形容的なイメージに差があると解釈することは注意が必要である。

IV 総合考察

本研究では、雨中人物画における「雨」描画の客観的な理解を目指し、雨に関するイメージを探索的に検討した。結果を概観し、以下の知見を見出すことができた。

1. 日本における雨イメージの差異

雨イメージについて、各地域で回答者の約5~7

割がネガティブなイメージを語り、日本において雨のイメージは概ねネガティブな傾向を持つことが示された。自由記述から得られた頻出語リストにおいて、「ジメジメ」「濡れる」という語があることから、雨が降ると体が濡れないように傘を差さなければならないという不便さや、湿度の高さから一度濡れてしまうと乾きにくいといった感覚的な不快さによって、ネガティブなイメージが想起されることが考えられた。

性別においても、男性も女性も6割以上がネガティブなイメージを持っていることが示され、雨についてのイメージに性差はほとんど見られなかった。ただし、男性の方が女性に比べて雨に対してポジティブなイメージを抱きやすいことが示唆された。自由記述の内容からは、女性は外見といった自己に関連する内容が多く書かれていた一方で、男性は雨に対して、自然や植物など外界に焦点を当てた内容が多く書かれていた。そのため、男性と女性では雨に対する捉え方が異なることが推察された。

本研究の結果から、日本においては、大半の人々が雨に対してネガティブなイメージを持っていることが示唆され、雨中人物画において雨が不快なストレス状況を象徴するという解釈は、日本において概ね支持することができると考えられる。ただしネガティブイメージを持つ割合には、その地域における気候や農業・産業、生活環境などの違いや、性別、精神的健康の度合いによって差がある可能性が示唆された。

2. 精神的健康と雨イメージの関係

K6を用いた精神的健康の水準による雨イメージの比較を行ったところ、精神的健康の低い人の方が比較的ネガティブな雨イメージを持ちにくいことが示された。

精神的健康が保たれている人、エネルギーのある人にとって、雨は外出が制限されたり、晴れ晴れとした空が見られなかったりなど、生活や感情

にネガティブな影響を及ぼすことが多いため、「雨＝不快なもの」として直接的に捉えやすいことが考えられる。一方、精神的健康度が低い人にとっては、雨は自身の感情に沿いやすく、心地の良いものとして捉えられることもあることが関係していると考えられた。

一方でこの結果は、精神的健康の低い人の認知特性や意味付けの傾向を反映している可能性も考えられた。抑うつ症状を示す者は自分自身や世界をネガティブに捉え(Beck, 1976)、ストレス状況から遠ざかるような回避優先コーピングを多く用いるとされる(Endler&Parker, 1990)。すなわち、心理臨床現場で臨床群と呼ばれる人々が、ストレスとなるもの(雨)を否認したり、主観的に解釈をしたりするといったように、ネガティブな物事に対して直面しないようにすることである。精神的健康が低い人にとって、ストレス(雨)は「ネガティブなもの」として直接的に認知・表現されず、異なる意味づけで解釈したり、回避したりする可能性があるかもしれない。「雨の中の私」という状況は、誰しもが日常で経験する場面であり、雨中人物画ではその場面を描くように設定されていることから、バウムテストのような投影よりも現実世界に近い、浅い投影が行われやすいことが考えられる。仲嶺・島田(2008)も、パーソナリティのような変化しにくい特性よりも、その時の描き手の心理状態が表れやすいとしている。そのため、現実世界における個人の雨に対する経験・イメージが描画にどのように表れているのか、描画後に丁寧にヒアリングをすることが必要だろう。

3. 本研究の限界

本研究には2つの限界が挙げられる。1つ目に、本研究の対象者は20歳から39歳と限定的であったということである。例えば、第一次産業が盛んであった世代の人々に雨のイメージを問えば、よりポジティブなイメージを語ったかもしれない。本研究で得られた雨のイメージについての結果を

一般化するには、より幅広い世代に調査する必要があると考えられる。

2 つ目に、インターネット調査で得た回答の信頼性である。本研究では、北海道から沖縄まで、様々な地域に住む人から回答を得ることが目的であったため、インターネット調査をする必要があった。研究者が直接質問紙を配布し、見守りのもと回答する調査と異なり、インターネット調査では、回答者の好きなタイミングで、スマートフォンなどを使い手軽に回答することができるため、環境を統制することができていないことに留意する必要がある。

以上のように、本研究には2つの限界が挙げられたが、雨中人物画を日本で施行する際に、日本で雨がどのように捉えられているのかについて概観することは、雨描画の解釈において重要な視点であるといえる。「雨＝ストレス」仮説は疑問を呈されてきたことが多かったが、本研究の結果から、日本において雨をストレスとして解釈することを支持する一つの知見が得られたのではないかと考える。今後は、健常群と臨床群の比較を通して、雨中人物画に雨がどのように描かれるのか、雨(ストレス)をどのように認識し、意味づけをしているのかを検討することが課題である。

<付記> 本研究結果の一部は、日本心理学会第86回大会で発表されたものに加筆・修正を加えたものである。

文献

- Beck, A. T. (1976). *Cognitive therapy and the emotional disorders*. New York: International University Press.
- Carney, S.M. (1992). *Draw a person in the rain: A comparison of levels of stress and depression among adolescents*. Pace University.
- Chebaro, M. (1998). *Cross Cultural Inquiry in Art and Therapy*. In A. R. Hiscox & A. Calish (Eds.), *Tapestry of cultural issues in art therapy* (pp. 229-240). London: Jessica Kingsley.
- Endler, N. S., Parker, J. D. A. (1990). *Multi-dimensional assessment of coping: A critical review*. *Journal of Personality and Social Psychology*, **58**, 844-854.
- Fodor, Von S. & Kendel, K. (1966). *Vergleichende Beobachtungen von schwarzen und farbigen Baumzeichnungen bei psychotischen Patienten*. *Schweizer Archiv für Neurologie, Neurochirurgie und Psychiatrie*, **97**, 361-386.
- Furukawa, T., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., ... Kikkawa, T. (2008). *The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan*. *International Journal of Methods in Psychiatric Research*, **17**, 152-168.
- 古川 壽亮・大野 裕・宇田 英典・中根 充文 (2003). 一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究 研究協力報告書.
- Hammer, E. F. (1958). *Clinical application of projective drawings*. Illinois: Charles C. Thomas.
- 樋口 耕一 (2020). 社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して——第2版 ナカニシヤ出版
- 平野 真理 (2010). レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み—二次元レジリエンス要因尺度(BRS)の作成. パーソナリティ研究, **19**, 94-106.
- John, O. P. & Srivastava, S. (1999). *The Big Five trait taxonomy: History, measurement, and theoretical perspectives*. In L. A. Pervin & O. P. John (Eds.), *Handbook of personality: Theory and research* (pp. 102-138). New York: Guilford Press.
- 片口 安史 (1987). 改訂 新・心理診断法 ローレンシャッハ・テストの解説と研究 金子書房
- Kessler, R.C., Andrews, G., Colpe, L.J., Hiripi, E., Mroczek, D.K., Normand, S.L., Walters, E. E., & Zaslavsky, A. M. (2002). *Short screening scales to monitor population prevalence and trends in non-specific psychological distress*. *Psychological Medicine*, **32**, 959-976.
- 気象庁 (2020a). 名古屋 平年値 (年・月ごとの値) 国土交通省気象庁 Retrieved from https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_sfc_ym.php?prec_no=51&block_no=47636&year=&month=&day=&view=a1 (2022年8月28日)
- 気象庁 (2020b). 新潟 平年値 (年・月ごとの値) 国土交通省気象庁 Retrieved from https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nml_sfc_ym.php?prec_no=54&block_no=47604&year=&month=&day=&view=a1 (2022年8月28日)

